ひみこちゃんが「大和さくらい100選」一度は行ってみたいスポットを紹介 - その26 -

今回は、「大和さくらい１００選」の「記紀万葉ゆかりの地」に選ばれているまきむくの宮を紹介するよ！

第12代景行天皇が宮を営んだとされる「纒向日代宮」跡の石碑は、相撲神社に向かう坂道の途中に建っています。

第11代垂仁天皇の「纒向珠城宮」（『古事記』では師木の玉垣宮）跡の石碑は、現在珠城山古墳群から100 mほど西の水路の隣にあります。

現在の巻向川は車谷から箸中を経て、大泉の東方で初瀬川に合流していますが、過去の発掘調査によると、古墳時代から平安時代には、現在の巻向川の他に、車谷付近から西北の辻地区の方向に流れる川が存在し、古代にマキムクと称された地域は、この二つの川に挟まれた一帯であったと推測されています。このことから、この地域で垂仁天皇と景行天皇の宮が営まれたとされ、宮跡伝承地となっています。

大和は　国のまほろば
たたなづく　青垣
山ごもれる　大和し美し
倭建命――古事記・中巻

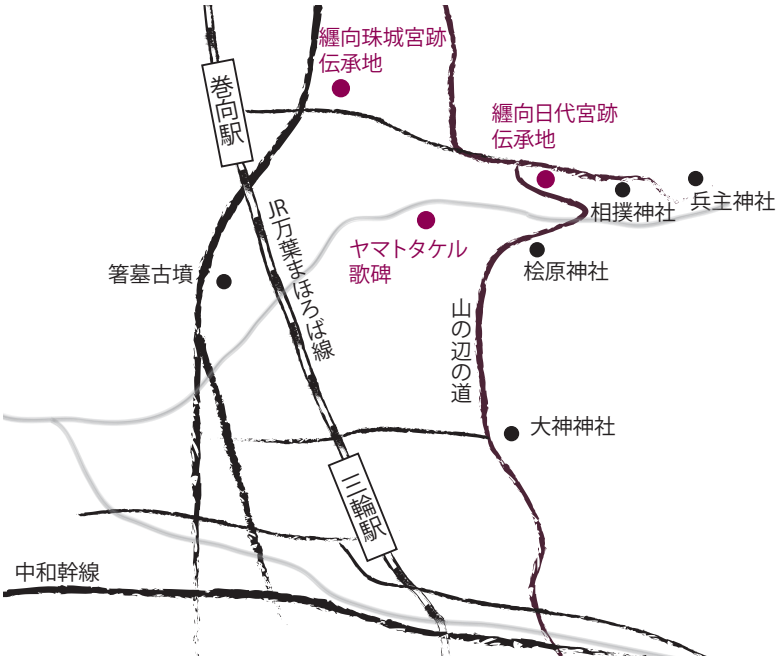
↑ヤマトタケルの歌碑（揮毫：川端康成）

小碓命（ヤマトタケルの号を冠する前の名前）は景行天皇と針間之伊那昆能大郎女の子どもにあたり、英雄ヤマトタケル伝説があります。

ヤマト王権が三輪にあった４・５世紀は、日本各地に朝廷の権力に服さない豪族が多数いました。景行天皇は、息子の小碓命の荒々しい気性を恐れ、熊曾健兄弟の征伐を小碓命に命じます。ヤマトタケルの号は熊曾健の弟が誅伐されるとき、武勇を嘆賞し小碓命に献じたとされています。

その後、さらにヤマトタケルは東征を命ぜられます。そのとき、伊吹の神と戦いますが、神の化身に氷を降らされ失神した際、病の身となります。そして亡くなるときに、ふるさとヤマト（桜井）への思いを詠みました。これは、その歌の一節とされています。

↑井寺池



「ひみこちゃんのページ」
http://www.city.sakurai.lg.jp/himiko/index.html
観光まちづくり課（☎ 42 - 9111 内線 342）
twitter @himiko_ _chan